

松本歯科大学学会設立総会の記録

松本歯科大学教授会ならびに学会幹事会の推進力と同大学理事会の鞭撻と援助によって、昭和50年11月8日に松本歯科大学学会設立総会を開催することができたわけですが、ここにそれまでの経過および総会次第の概略を記録しておきたいと思ひます。

設立総会の準備

昭和50年度の学会幹事を委嘱されたものは橋本京一、服部玄門、原田 実、中後忠男、枝 重夫の各教授で、橋本教授を幹事長とし、前後11回の幹事会を開いて、学会設立の準備を進めて来た。総会開催および学会誌発行の費用を含めた予算案もできあがり、さらには総会の期日も決定したので、学内では演題募集を始めると共に、総会の案内状を全国歯科大学学長および歯学部学長、日本歯科医師会、本学役員、本学各教室、本学非常勤講師、本学父兄会役員、長野県歯科医師会会員の各位に差し上げた。その文面を示せば次の通りである。

さらに、学会の運営を円滑にするため賛助会員を募ることとし、歯科関係業者に次の如き御依頼状をお送りした。

拝啓

秋冷の候 貴社益々御発展のことと慶賀申し上げます。
また、日頃より我が松本歯科大学のために絶大なる御援助を賜り厚く感謝いたします。
さて、本学では別紙御案内状にございます通り、このたび学会を設立いたしますことに相成り、その準備に追われている昨今でございます。学会を円滑に運営し、さらにより充実させるためには、申すまでもなく学会々員数の増加を計ることが大切と存じます。さらに、一般会員の他に賛助会員の御協力が是非とも必要になってまいります。
諸物高騰の折から貴社におかれましても種々の御事情があらうかと存じますが、以上のことを御推察の上、賛助会員として御入会いただき、新しい学会のために御助力下さるようお願い申し上げます。追って、賛助会員会費は、年会費 一口一〇、〇〇〇円となっておりますが、何口でも結構でございます。同封書にて御承諾(口数、否、その他の御意見をお寄せいただければ幸いに存じます。先ずは御挨拶少々御願ひまで。

敬具

昭和五十年十月二十五日

松本歯科大学学長
北村勝衛

殿

設立総会

設立総会は11月8日土曜日、午後1時より本学講堂において、来賓、学内外の会員、多数出席のもとに下記の次第により開催された。

総会次第

- | | | |
|-----------|------------|---------------------|
| 1. 開会のことば | 学会幹事 | 橋本京一 |
| 1. 学会長挨拶 | | 北村勝衛 |
| 1. 創立者挨拶 | | 矢ヶ崎康 |
| 1. 祝 辞 | 東京歯科大学学長 | 関根永滋殿
(代理 米澤和一殿) |
| | 長野県歯科医師会会長 | 田中益穂殿
(代理 小口勝衛殿) |
| 1. 祝電披露 | 学会幹事 | 橋本京一 |
| 1. 経過報告 | " | " |
| 1. 議 事 | 学会評議員 | 高橋重雄
(議長) |
| | 会則の承認 | |
| | 役員任命 | 副学会長 加藤倉三 |
| 1. 閉会のことば | 学会幹事 | 枝 重夫 |

拝啓

秋冷の候 貴下益々御健勝のこととお慶び申し上げます。
開学してより三年半を経まして、本学の教育・研究・診療がいよいよ軌道に乗ってまいりましたことは、ひとえに皆様方のお力添えの賜物と感謝いたしております。
さて、本学ではかねてより学術講演会あるいは研究発表会という名称のもとに研究業績を発表してまいりましたが、学会を作ろうとする気運が盛りあがりまして、着々その準備を進めてまいりました。
その機熟し、来たる十一月八日(土)午後一時より松本歯科大学学会の設立総会を開催する運びになりました。学会会則(案)もできあがりましたので同封し、学会設立総会の御挨拶をたがた御案内いたします。

敬具

昭和五十年十月二十五日

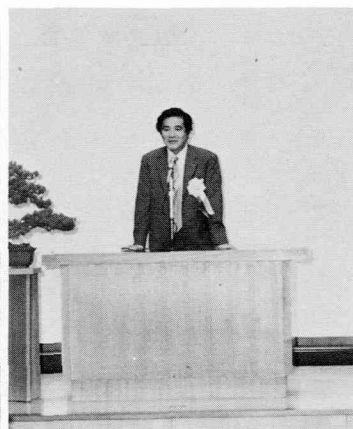
松本歯科大学学長
北村勝衛

殿



学会長挨拶

松本歯科大学学長 北村勝衛(中央)
 松本歯科大学学監 加藤倉三(左)
 東京歯科大学名誉教授 米澤和一(右)



創立者挨拶

矢ヶ崎 康
 (敬称略)

学会長挨拶、創立者挨拶および来賓の祝辞は次の通りである。

学会長挨拶

松本歯科大学学会発会に当って

北村 勝衛

わが松本歯科大学の歴史の上に特筆すべきものと思われまふところの、松本歯科大学学会が本日スタートするに当りまして、一言御挨拶申し上げます。

松本歯科大学学会の成立については、永い間準備中でありましたが、この程その準備が終了して、今日の発会に漕ぎつくことができましたことは、大変喜ばしいことであります。本学会設立に当って、先ず理事会の温い理解を頂きましたことに感謝致しますが、同時にその準備委員として御努力頂いた教授諸賢に深く感謝するものであります。

大学に学会がないということは、大佛殿を作って大佛がないのと同様に、甚だ可笑しなものであります。本学は開学以来その必要を痛感しながらも、一応別な形、即ち学術講演会あるいは研究発表会として、研究発表の場を姑息的ながら作って参りましたが、本日から、正式に学会が成立す

る運びになりましたことは実に結構なことだと思います。

また前には、松本歯科大学研究会誌を発行して参りましたが、これからは、これを「松本歯学」と改題して、重みのあるものが発行される予定となっておりますことは、これまた御同慶の至りであります。

本日は、総会においては、会則の承認等、また学会に入っては、沢山の研究発表が予定されておりますが、すべてこれらが円滑に終了いたしますことを祈ります。

なお、発会式に当りまして、各歯科大学の代表の先生方、長野県歯科医師会の会長先生及び会員の先生方、並びに本学会を賛助して下さる方々に、御案内申し上げましたところ、お忙しいところを、枉げて御列席を頂き、その上、只今から代表の方より御祝辞並びに激励の御言葉を頂くことになっておりますが、私はこれを最大の光栄として感謝申し上げる次第であります。また多くの祝電またはお祝の御手紙を頂いておりますが、これまた感謝感激でありまして衷心御礼を申し上げます。

最後に、本学会が、今後、学内外会員諸氏の一段の努力によりまして、学会の内容の整備と充実、会員の確保並びに雑誌の発表等、順調に進展しますよう祈りまして、私の挨拶と致します。

創立者挨拶

矢ヶ崎 康

本学々会が、本日発会の運びになりましたことを心よりお祝い申し上げます。

すべての本学の学者、研究者はそうありますが、特にその任に当たられる方々のこれまでのご努力は大変だったと思い深い敬意を捧げます。ここには東歯大より学長代理として米澤教授が態々ご臨席なされておりますが、本当に有難いことだと思います。特に、私はかつて米澤先生の部屋で大変お世話になった関係で、先生がおいで下さったことは殊更に意義深いものがあるように私には感じられます。

学会の発足と、それに伴って学会誌『松本歯学』が発刊される訳であります。開学三年有ヶ月でこの様な快挙が得られるということは本来は大変むずかしいことであります。しかしこれが敢て実行されたということは一重に学長始め総ての学者達の燃えるような学問への熱意がそうさせたのであることを信じ、心より有難く心から尊敬の念を捧げずにはおられません。

昭和49年に皆さんの手によって発行された『松本歯科大学研究会誌』の挨拶の中で、生理学者パブロフの言葉を借りて私は多少の要望を書きました。その内容は『研究というものとは事物の歩みにおける事実の単なる記載に留まっていはいけない。事実が発見されたらその事実がどのように生まれ、成長し、変化し、発展しそして将来どのように進化していくかを見つめ、そしてそのような事柄を通じて自然の法則をつかみ取ることが大切である』ということでありました。学問というものは、本来そのようなことの必要から生まれたものであり、決して事実の記載人に留まっていけないのであります。それからまた学問は、それなるが故にこそいかなる政治的権力をも、どんなに巧みなゴマカシも、それを発見し、直ちに否定するものでなくてはなりません。従って学者というものとはそれだけに、絶えず旺盛な気魄と辛棒強い信念がなければその目的を完全には遂行することはできないのであります。そして発見した真理を守り通すためにはどんな迫害や妨害にも打ち勝つ燃えるような勇気も必要なのであります。学

者生活の困難さというものはこのような中にこそあるのであります。

学問の道はですから常に理性的でなくてはなりませんし、既成概念に左右されその進歩を遅らせることは許されません。

11世紀半ば頃、当時の絶対的権力を持っていたキリスト教とスコラ学の支配したその世界から、あらん限りの力をふりしぼって、いままでの科学の方法に疑問を持ちその中から敢然と抜け出ようとしたロジャー・ベイコンや、トーマス・アクィナスなどの先達を私どもは今でも決して忘れることはできませんし、またキリスト教や先輩たちのいろいろの迫害の中で惨めにいたみつけられ、且つそれでもなお自己の意志を死ぬまで貫ぬき通したガリレイ、哲学者ジョルダーノ・ブルーノ、化学者パストゥールなどなど、そのほか数多くの学者たちをもう一回想起してみる必要があります。今は形は違っていますが、わが国にもまだ真理に挑戦する幾多のいろいろの圧力が存在しています。一部の先輩の頑迷さや勇気のなさもそのなかに数えられます。それをはねのけ堂々と学問のために闘うことが科学者としての良心を守る道であり、しかもそのことこそが科学者の最大の使命であると思います。

これから皆さんが教育し、研究する中でいろいろの障害が発生いたしましょう。そのときは全学一致して学者の良心を守るために団結して行きたいと思うのであります。教育はなぜ生まれたのか、研究はなぜ必要なのかその源泉に立ち戻って考えて行こうではありませんか。いろいろ述べました。時間がないのでこの辺で止めますが、学会が生まれた以上は一時も早くよりよいものに成長できるように心から祈念して私のお祝いの言葉といたします。

祝 辞

昭和47年(1972年)4月発足の松本歯科大学が、創立以来3年数か月を経て校舎の内外の整備に併行して基礎・臨床の研究態勢も軌道にのったので、本日を卜して松本歯科大学学会の設立総会をもたれましたことは、ご同慶の至りと存ずる次第であります。

さて松本歯科大学創立に当たり、多数の教員を

送り特段の協力の実を示したわが東京歯科大学は、明治23年(1890年)の創立で、すでに85年を経ており、本邦最古の歯科医学校であります。研究発表のための機関誌たる月刊「歯科医学叢談」(今日の月刊「歯科学報」)の発刊は創立5年後の明治28年(1895年)でありながら、東京歯科大学学会の正式発足は実に創立67年後の昭和32年(1957年)であります。もっとも学会の前身は昭和9年(1934年)ですでに発足していて、学術発表会も終戦前に88回を数えており、戦後もこれを継承して140回に及んでいたのですが、会員、会則、会費を規定した上での、年次総会や学術発表のための会やその機関誌の一切が整備された正式の学会の形式をととのえるのにやむなく67年を要したもので、学術発表も今や196回を数えるに至っております。

然るに新設の松本歯科大学は、創立日なお浅くして既に正式の学会ができ、やがて学会機関誌たる「松本歯学」をもつことになる由、うらやましき限りに存じます。思うに、「ローマは一日にして成るものに非ず」で、研究は、量もさることながら、質であります。皆さんの毎日の実験・研究の積み重ねで、15題の立派な今日の第一回学術発表会となったものと確信します。校舎、病院、体育館、実習館の早々の整備まことに宜しいのですが、形もさることながら、今日を基点として研究者の質と心構えや研究の内容に加うるに、研究設備や研究費の一段の充実が望まれる次第です。

ここに折角旗あげされた松本歯科大学学会の母体たる松本歯科大学の弥栄と松本歯科大学学会の御発展を祈って祝辞といたします。

昭和50年11月8日

東京歯科大学学長
東京歯科大学学会長
関根永滋
(代理 米澤和一)

祝 辞

本日茲に松本歯科大学学会の設立総会を開催されるに当りお招をうけ御祝辞を申し上げる機会を得ましたことは私の最も光栄に存ずる次第であります。時まさに晩秋の季節信濃路の山野は紅葉に

彩どられ山紫水明の眺めを一望に収めた環境の良きこ郷原の地に松本歯科大学が設立されて早3年6か月と相成りますが設立当初医療界には激しい旋風が吹き荒れ歯科界にもその波が押しよせて来たのであります。しかしそれも月日が過ぎるうちにさざ波のように落ち着きを取り戻しております。過去の逆境にもめげず前進の歩みをつづけられ歯科界との相互関連の場として我が長野県歯科医師会とも緊密な連けいを下され共存共栄のもとに県内歯科医師の学問的技術的向上にも御協力いただき地域社会の文化的興隆に寄与されつつ着実に躍進される姿は私ども歯科界に携わるものは勿論のこと地域社会の福祉に大きな貢献をもたらすものと限りない喜びと敬意を表する次第であります。

以上誠に簡単ではありますが具辞を申しあげ今後この学会が松本歯科大学の運営に大きな役割を果たし共々一層の発展されますよう祈念いたし祝辞といたします。

昭和50年11月8日

長野県歯科医師会
会長 田中益穂
(代理 小口勝衛)

祝 電 披 露

祝電をお寄せいただいた方々は下記の通りです。まことにありがとうございました(順不同、電文省略)。

東京歯科大学学長	関根永滋 殿
大阪大学歯学部学長	河村洋二郎殿
愛知学院大学歯学部学長	永井 巖 殿
日本歯科医師会会長	中原 実 殿
日本歯科大学歯学会会長	三代幸彦 殿
日本歯科器材学会会長	山賀礼一 殿
大阪大学歯学部教授	宮崎 正 殿
長野県歯科医師会会長	田中益穂 殿
松本歯科大学父兄会会長	高木重雄 殿
松本歯科大学前理事長	辻田 力 殿
長野県歯科医師会専務理事	桐原成光 殿
岐阜県美濃加茂市	渡辺卓也 殿
鹿児島市	柴山一雄 殿

学 会 会 則

学会会則案について学内外の熱心な会員よりの
質疑討論が行なわれ別頁に掲載の如く決定され
た。

会計幹事 中後忠男, 恩田千爾
編集幹事 枝 重夫, 待田順治, 野村浩道,
高橋重雄, 安田英一, 佐藤勝也,
近藤 武
監事 徳植 進, 栗本 勤

学 会 役 員

学会長 北村勝衛
副学会長 加藤倉三
庶務幹事 橋本京一, 原田 実, 鈴木和夫,
今西孝博
集会幹事 服部玄門, 千野武広, 中村 武,
前橋 浩

なお, 評議員のうち学内は会則にありますよう
に, 本学専任教授・助教授となっておりますが,
学外の評議員については後日人選を行なうことに
なりました。以上で総会の記録を終ります。

会員募集について

学会を円滑に運営するためには, 会員が多いことが必要です。そこで本学会
では, 広く会員の募集をしています。学会会則(別掲載)にはいろいろ書か
れてありますが, 歯科医師の方で本学会の主旨に賛成し, 学会費(入会金を含
めて 5,000 円)を納入していただければ, どなたでも一般会員になることがで
きます。入会申込用紙と振替用紙は学会事務局にございますので, 御請求下さ
れば, いつでもお送り申しあげます。会員の方は, 会員をふやすようぜひとも
御協力下さい。なお本誌に挿入されている振替用紙は昭和 51 年度会費納入のた
めのものですので, 未納の方は 3,500 円を送金下さるようお願いいたします。

庶務・会計幹事

原稿募集

本誌第 2 巻第 1 号は昭和 51 年 6 月 30 日に発行の予定で, その原稿を募集し
ております。奮って御投稿下さるようお願い申しあげます。原稿〆切りは 4 月
17 日(土)です。

なお, 投稿規程および本号を参照になって体裁の整った原稿を作られるよう
希望いたします。また第 2 巻 2 号は同年 12 月 31 日発行の予定となっております。
編集幹事